



櫛北小だより



学校教育目標「ゆたかな心もち たくましく生きる」

<http://www.kita.m-alps.ed.jp/>

発行：校長室 2019. 12. 24 (No. 8)

落ち葉掃き



秋、11月半ばころから、櫛形北小には大量の落ち葉がやってきます。

校地内の樹木からの落ち葉はもちろんのこと、西側を流れている大和川の土手のクヌギの落ち葉が、風に運ばれて校地内に入ってきます。このク

ヌギの落ち葉がたいへんな量です。特に風が吹いた翌朝は玄関前は落ち葉だらけです。

シーズンの落ち葉の量は、90リットルのビニル袋につめていくと100袋以上にもなります。毎年、5月ごろまで落ち葉の掃除が続きます。

きれいな学校にしようという運動で、児童会が呼びかけ、何度か朝の落ち葉掃きが行われました。6年生や、朝、早めに登校した児童が中心になり、きれいにしています。

きれいになった学校に、まもなく新年がおとずれます。

冬も体力づくり

定期的に朝の北小タイムの時間（8：30～8：40）を使って、スポーツタイムとして運動をしています。

12月10日（火）はチャレンジ10。体力づくりとたてわり班活動を合わせて、10種類のゲームを順番に選んで、班ごとに楽しみます。

櫛形北小学校では休み時間（10：30～10：50）に、外で遊ぶ児童が多いと思っていますが、外で遊ぶことが少ない児童も中にはいます。

スポーツタイムは、外で体を使って遊ぶ楽しさを知る機会にもなっています。



東京タワーと内藤多仲博士を学ぶ



5年生は来年の修学旅行の事前学習の内容も含めて、総合的な学習の時間に、内藤多仲博士について学習をおこないました。

ゲスト・ティーチャーとして、齊藤康弘さんと保坂さつきさんにお越し

いただきました。

齊藤康弘さんは、現在、建築設計の仕事をされています。楡形北小の校舎の設計もされました。学生時代に内藤多仲博士のもとで学ばれた経験から、内藤多仲博士の人柄や耐震構造建築のしくみについて話してくださいました。

保坂さつきさんは曲輪田にお住まいで、退職まで高校の国語の先生をしていらっしゃいました。『生誕百二十年記念誌 内藤多仲博士に学ぶ』という本の編集委員をされる中で、取材を通して知った内藤多仲博士のたくさんのエピソードを話してくださいました。

お二人のお話から、内藤多仲博士がたいへんに勉強熱心で努力家であったことがうかがえました。

ゲストティーチャーとして地域の方々から学び、来年、東京タワーの見学ができる子どもたち。うらやましいです。

(齊藤康弘さんも編集委員の一人です)

中学生とあいさつ運動



楡形地区小中一貫教育の取り組みのひとつとして、毎学期末に中学生が小学校に来て、あいさつ運動をしています。

2学期は12月18日(水)、19日(木)の2日間行われました。

今回の中学生メンバーは2年生で、楡形北小の卒業生でした。ついこの間まで小学校でいっしょに生活していた卒業生でしたので、小学生の気分も高まります。この2日間は楡形北小のPTAの役員さんも参加していただき、児童会役員や早く来た5・6年生もいっしょになって、「おはようございます」のあいさつを響かせていました。

放課後学習教室

月に何回か、図書室を使って放課後学習教室をおこなっています。12月の個別懇談中は図書室が控室になったため、となりのパソコン室で学習教室をおこないました。

宿題に取り組む児童、自主学習に取り組む児童。この時間を有効に使って学習をしています。当番で教師がついているので、わかるまで質問をする児童もいます。プラス・アルファの学習時間として、3学期もおこなっていきます。

